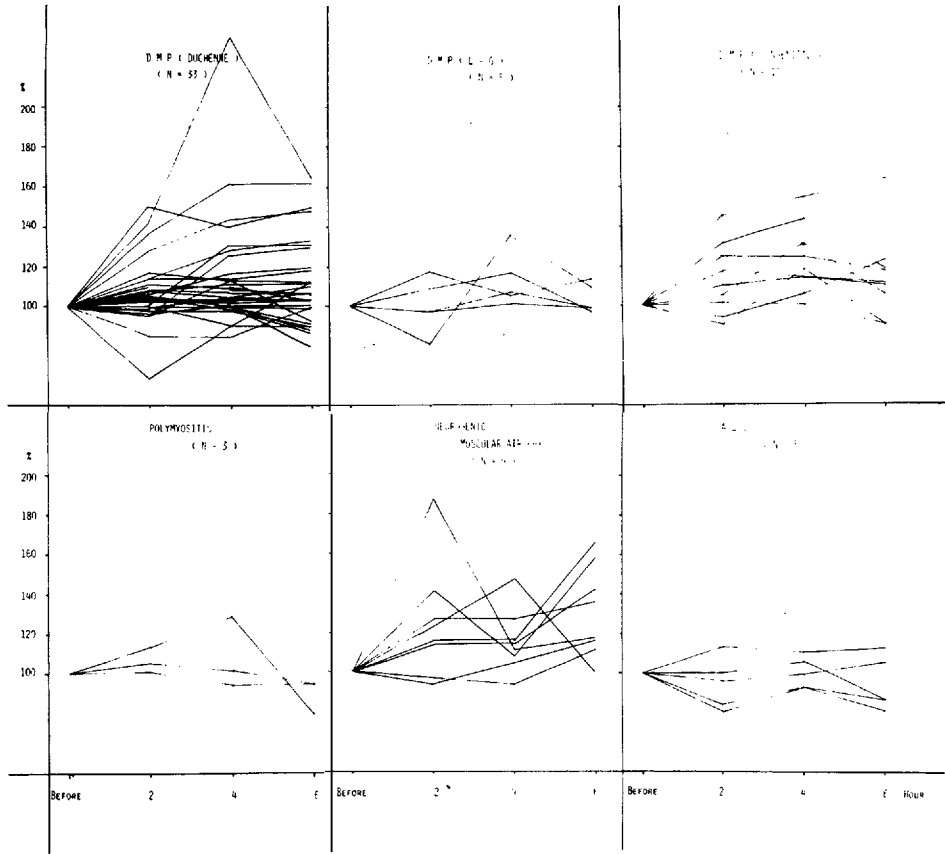


Fig 1.



|| DMPのHLA — Frequency について

国立療養所宇多野病院

野口 貞子	北野 治男
小西 哲郎	池上 佳典
吉岡 三恵子	鍋谷 登

〔研究目的〕

臓器移植の分野から主要組織適合性抗原 (M L C) として研究されてきた H L A (Histocompatibility locus A) は最近になって疾患感受性との関連において注目されるようになってきた。特に各種白人の自己免疫性疾患と B 8、日本人若年性糖尿病と B W54、Ankylosing spondylitis と B27のように、H L A と疾患の間に非常に高い相関関係が知られている。このリンパ球表面に存在する H L A を遺伝疾患と考えられる D M P (とくに Duchenne 型) で検索し、本症の成因を追求する一助にしたいと考え、この研究を行った。ので報告する。

### 〔対象と方法〕

対照は Duchenne- D M P 53例で男は50例、女は3例で、方法は、N I H Lymphocytotoxicity test に準じて、H L A-A、Bの typing を行った。抗血清は主として東海大学 (辻公美教授の抗血清21種類、75血清を用いた。

### 〔結 果〕

(1) H L A-A- locus については、A1 が Table 1.の如く対照 176人に対し0人 (0%) であるのに Duchenne D M P では53人中6人 (11.3%) の陽性率を示した。これは推計学的に  $X^2 = 16.26$ 、 $P < 0.00006$ 、corrected  $P < 0.002$  となり、有意に H L A-A1 は Duchenne- D M P に高頻度であった。

(2) H L A-B- locus については、Table 2.の如く B 7 が対照 8% に対し、Duchenne-D M P では、20.8% と高頻度であったが、推計学的には  $X^2 = 5.6$ 、 $P < 0.022$ 、corrected  $P$  を満たすまでには至らなかった。また H L A-B W22も対照の 19.3% に対し、32.1% とやや高頻度であったが、有意ではなかった。

### 〔考察とまとめ〕

Duchenne-D M P 53例の H L A- Frequency は、H L A-A1 が有意に高頻度で、次いで、H L A-B 7、B W22が高頻度であった。しかし A、B locus のみでは必ずしも疾患との相関を論ずるのは適当といえず、疾患感受性そのものにより近いと考えられている。

Mixed lymphocyte culture 法による H L A-D locus や Family study の検討が必要で今後さらに研究を続ける予定である。

Table 1.

FREQUENCY OF HLA ANTIGENS IN D. M. P. (DUCHENNE TYPE)

#### I. HLA LOCUS A

Antigen	Patients (n=53)		Controls (n=176)	
	No. Case	%	No. Case	%
HLA-A1	6*	11.3	0	0
HLA-A2	18	34.0	83	47.2
HLA-A3	0	0	0	0
HLA-A9	29	54.7	94	53.4
HLA-A10	12	22.6	35	19.9
HLA-A11	12	22.6	28	15.9
HLA-AW19 (W30,31)	1	1.9	34	19.3

\*  $X^2 = 16.26$

$p < 0.00006$

Table 2.

FREQUENCY OF HLA ANTIGENS IN D. M. P.  
(DUCHENNE TYPE)

II. HLA LOCUS B

Antigen	Patients (n=53)		Controls (n=176)	
	No. Case	%	No. Case	%
HLA-B5	15	28.3	61	34.7
HLA-B7	11*	20.8	14	8.0
HLA-B8	1	1.9	0	0
HLA-B12	8	15.1	31	17.6
HLA-B13	1	1.9	8	4.5
HLA-BW15	7	13.2	32	18.2
HLA-BW16	2	3.8	18	10.2
HLA-BW17	0	0	1	0.6
HLA-BW21	0	0	0	0
HLA-BW22	17	32.1	34	19.3
HLA-BW35	3	5.7	34	19.3
HLA-BW37	2	3.8	0	0
HLA-BW40	13	24.5	62	35.2

\*  $\chi^2=5.60$

$p < 0.022$

12. DMPのミトコンドリアGOTについての研究

国立療養所宇多野病院

野口貞子 北野治男  
小西哲郎 池上佳典  
太田光瀨 遠藤二郎

【目的】

従来よりDMP患者では病初期血清CPK、GOT、LDHが高値を示し、疾病の進展とともに低下する傾向を示す事は、諸家の報告により明らかである。しかしこれらの酵素の動態について

 **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用   
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔研究目的〕

臓器移植の分野から主要組織適合性抗原 (MLC) として研究されてきた HLA(Histocom-partibility locus A)は最近になって疾患感受性との関連において注目されるようになってきた。特に各種白人の自己免疫性疾患と B8、日本人若年性糖尿病と BW54、Ankylosing spondylitis と B27 のように、HLA と疾患の間に非常に高い相関関係が知られている。このリンパ球表面に存在する HLA を遺伝疾患と考えられる DMP(とくに Duchenne 型)で検索し、本症の成因を追求する一助にしたいと考え、この研究を行った。ので報告する。